

公民科（公共）学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇）
埼玉県立和光高等学校
教諭 松本 悠

1 単元名：社会保障制度の課題

2 単元について

（1）教材観（学習単元の概要）

少子高齢化が進み、日本は今後、急速に人口減少社会へ突入するとされている。これまで構築されてきたシステムは制度疲労を起し、あらゆる分野で前例の無い解決策が求められている。そこで、少子高齢社会において日本が直面する問題点についてまず理解し、その解決のためにどのような方法があるのかを考察することで、望ましい社会保障制度の在り方について理解を深める。これら社会保障制度に関する一連の学習を通して、社会に主体的に参画するための資質を養いたい。

（2）生徒観（学習状況の実態）

集中力をやや欠くこともあるが、基本的な学習態度は身につけている生徒が多い。現代社会という科目の性質上、毎時間時事問題を取り上げているが、頻繁にニュースをチェックしているなど、時事的な話題に興味・関心を示す生徒もいる。生徒たちの授業中における素朴な質問が、授業展開の一助になることも多い。

（3）指導観（学習の手立て）

社会保障に関する基本的事項については、講義形式およびワークシートを用いて理解させる。社会保障費の負担の在り方や諸外国のシステム等、多角的な視点を必要とする部分については、グループワークで行ない、より広い視野に立って理解させる。

3 単元の目標及び評価規準

（1）単元の目標

- ・現在、すでに労働力需給や経済成長など国民経済に大きな影響が出ていることや、医療や年金など社会保障費の財政負担の増大も大きな問題となっていることを理解させる。
- ・少子高齢化の原因や問題点について生徒自身に考察させ、その解決のための方法について探究させる。
- ・社会保障制度を考える上では、様々な立場の人々について考慮する必要があることを理解させる。
- ・望ましい社会保障のあり方や、少子高齢社会に対して自分ができることは何かを、生徒自身の言葉で表現させる。

（2）単元の評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
・少子化及び高齢化の定義を説明できる。 ・日本の社会保障制度の問題点について理解している。	・少子高齢化の原因について、自分の考えを表現できる。 ・少子高齢社会の問題点について、自分の考えを表現できる。	・他者の考えを受容し、自分の考えと比較した上で尊重することができる。

4 指導計画

時	指導内容等
本時	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の定義（合計特殊出生率、総人口に占める65歳以上の割合）を理解させる。 ・少子高齢化の原因と問題点について自分の考えを表現する。特に財政的な問題点について理解させる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の一般会計予算の歳入と歳出について理解させる。 ・社会保障関係費が歳出の3割を占めており、今後高齢化の進展とともにその費用が増大していくことを理解させる。 ・日本の社会保障制度の内容（社会保険・公的扶助・社会福祉・公衆衛生）について理解させる。（特に社会保険は医療・年金・介護について）
3	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の社会保障制度の内容（社会保険・公的扶助・社会福祉・公衆衛生）について理解させる。（続き）
4	<ul style="list-style-type: none"> ・諸外国の社会保障システムについて、北欧型（高福祉・高負担）とアメリカ型（低福祉・低負担）の違いについてグループ活動を行なって理解させる。（それぞれのメリット、デメリットが把握できるように）
5	<ul style="list-style-type: none"> ・財源をどう捻出するかを考える上で、「現役世代」「高齢世代」「高所得者」「低所得者（年金生活者、生活保護、母父子家庭）」それぞれの立場から考察させる。（ジグソー法による）
6	<ul style="list-style-type: none"> ・「少子高齢社会において、どのような社会保障の在り方が望ましいか」について、前回のグループで議論を行ない、模造紙一枚に表現させる。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・前回のグループ活動の答えを、それぞれ発表させる。 ・他グループの発表を聞き、自分たちに無かった視点について評価させる。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の発表を踏まえ、個人で2つの問いに解答させる。 A「少子高齢社会において、どのような社会保障の在り方が望ましいか」 B「少子高齢社会において、明日から自分にできることは何か」について答えさせる。

5 本時の学習

(1) ねらい

- ・日本では少子化と高齢化が進み、人口減社会に突入していることを理解させる。
- ・少子高齢化の原因と問題点について自分の考えを表現するとともに、社会保障の問題は、国の在り方（形）そのものを問う問題であることを理解させる。

(2) 展開

時間	生徒の活動	教師の指導・支援等	資料等
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート①に取り組む ・発問に答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「少子高齢化」と聞いてイメージすること、知っているキーワードをワークシートに書くよう指示する。 ・数名指名し、回答を板書していく。 	<p>ワークシート、プリントを配布する。</p>
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントに記入する。 ・資料集p240のグラフを見て、2017年の合計特殊出生率と出生数を確認する。 ・プリントに記入する。 ・プリントに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化について「合計特殊出生率」の定義を板書する。 ・プリントのグラフの見方について説明し、2017年の日本の合計特殊出生率と出生数を資料集で確認させる。 ・高齢化の定義について板書する。日本は総人口に占める65歳以上の割合が21%を超え、超高齢社会に突入していることを確認する。 ・プリントの人口ピラミッドの図中に線を引かせ、65歳以上の数が増えていることを視覚的に理解させる。 	<p>資料集p240</p>
25分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート②に取り組む。少子高齢化の原因について考える。 ・プリントの<講義ノート>に記入する。 ・資料集p239で日本の男女の平均寿命を調べる。 ・ワークシート③に取り組む。少子高齢社会において起こり得る問題点を考える。 ・プリントの<講義ノート>に記入する。 ・資料集p250のグラフで、社会保障給付費と社会保険料収入の差額の大きさを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会の原因について考えさせ、ワークシートに自分の考えを書かせる。 ・数名指名し、回答を板書していく。 ・少子高齢社会の原因、要因について板書する。平均寿命については、資料集p239で確認させる。 ・少子高齢社会の問題点について考えさせ、ワークシートに自分の考えを書かせる。 ・数名指名し、回答を板書していく。 ・少子高齢社会の問題点について板書する。とりわけ、「社会保障関係費の増大」が、国家予算に大きな影響を与えていることを説明する。 ・資料集p250①「社会保障給付費と社会保険料収入の推移」のグラフで、このままでは持続可能性が無いことを説明する。 	<p>資料集p250</p>

5分	・ 少子高齢化の原因と問題点について確認する。	・ 本時のまとめとして、少子高齢化が起きた原因と問題点について概説し、次時の予告として社会保険制度を取り上げることがを説明する。	
----	-------------------------	--	--

6 板書例と使用資料

- ・ 別紙プリント
- ・ 『最新図説 現社』（浜島書店）

